

1
2
3
4
5
6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1
2
3
4

倭文庫三拾二編

嘉永八年

卯孟陽

第十六號



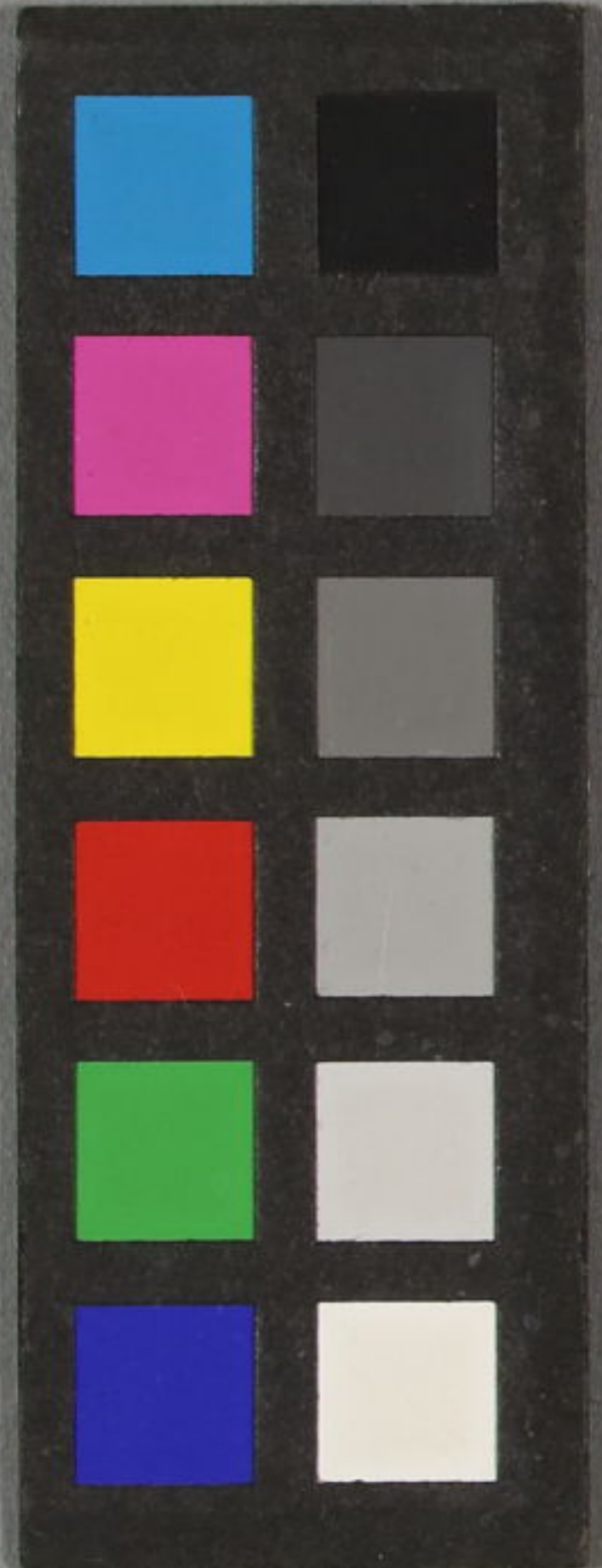
上

Gōkan: (No. 01)
Shaka Hassō.
Part 6 Book 4

~ 13

3749

16



門へ13
號 3749
卷 16

倭文庫

三拾一編

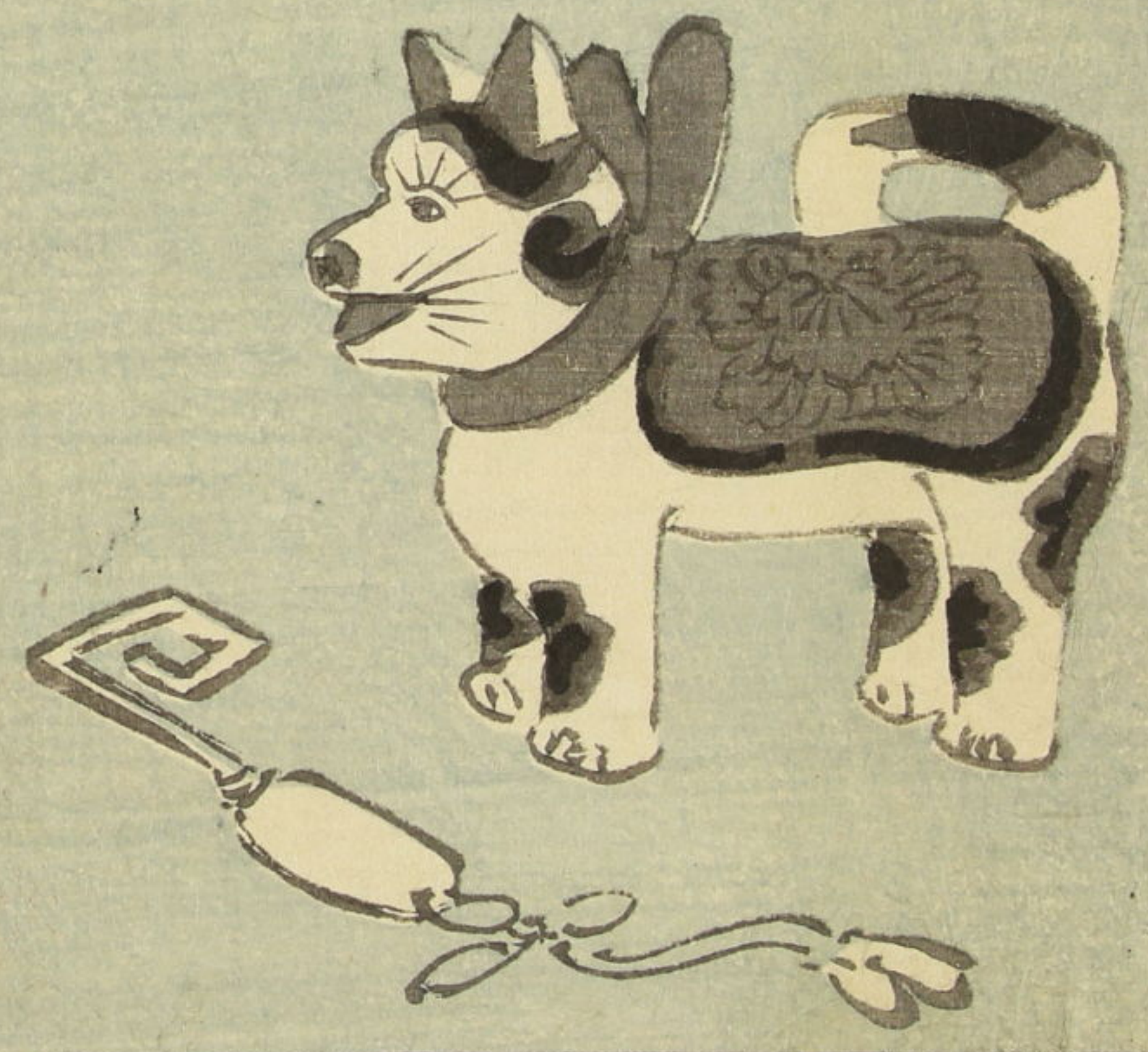
上之卷

万亭應賀作

一壽齋園貞画

江戸人形町通

上州屋重藏梓



三 一 四

釋迦八相倭文庫三拾壹編序

夫貪人の積聚多し得んも厭足を不生無明顛倒の心常に他
 と慢損せしと念現在冥然憎多く身を捨て悪道に墮すと
 有須達多事の諸書小數説のしと小紙の書と奉々々け
 の因果にりしと都提の為の摩迦加葉の名を仮そのの稗史
 の神儒佛道の二をわんでして作出せる本文面白かるる巻末
 の是は流行と宗とせし只勸善の道と立る故に諸君を素朴
 なるを見捨れんとされと爾云

嘉永八乙卯年正月吉辰

万亭應賀誌

倭文庫三十一



如来

舍利弗

如来舎衛國の

摩迦迦葉

都提伏

黄金を

掘せて

須達長者

小前せ

と語り

と云

須達長者

大迦葉



須達長
 者の炊女
 未利夫人
 波斯匿王の
 后ふりて
 入内の砌
 前世の仇人
 五人の扇提羅の
 玉の輿を
 舁ま

倭文庫三十一





此の天又
 此の天又
 此の天又

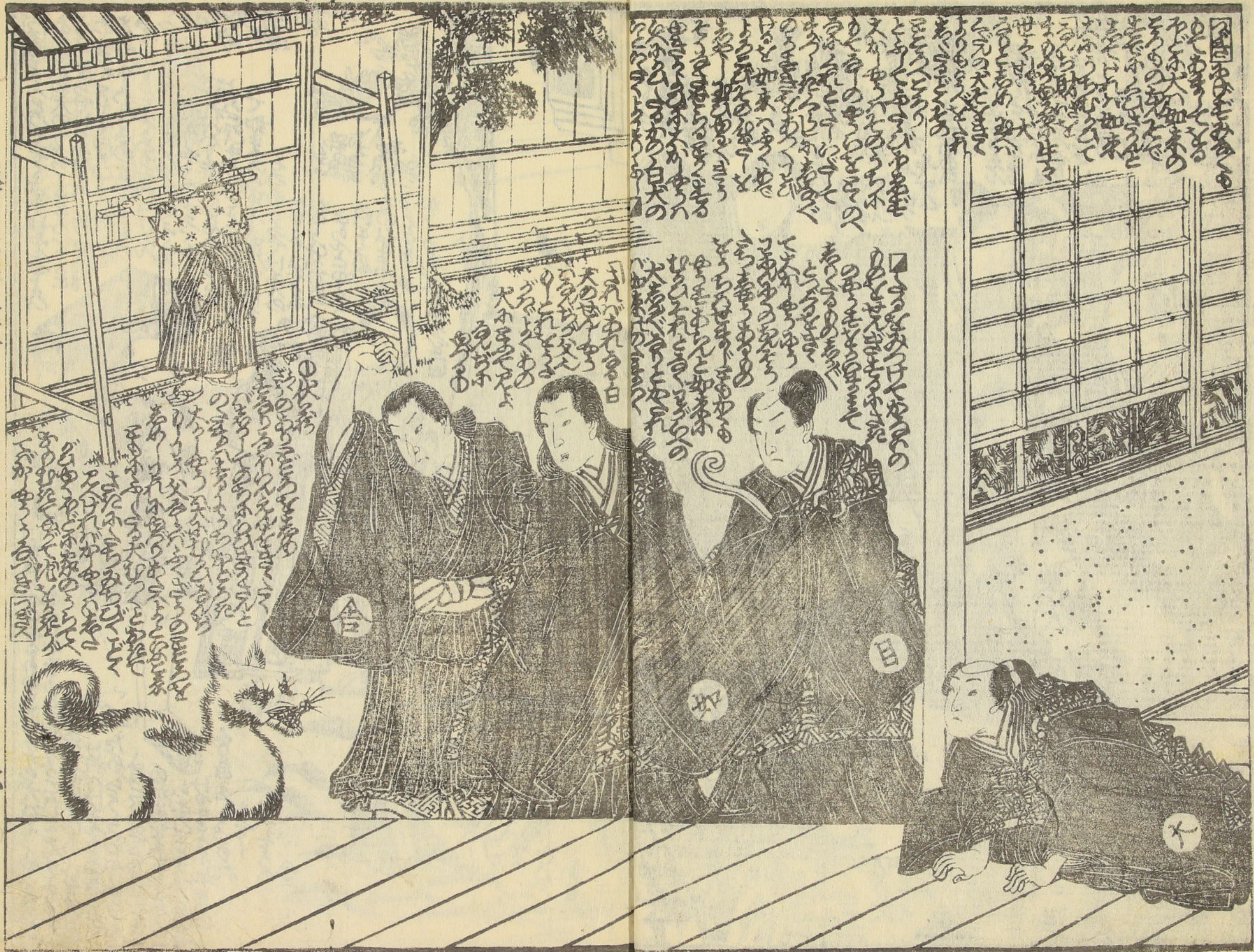
此の天又
 此の天又
 此の天又



此の天又
 此の天又
 此の天又

此の天又
 此の天又
 此の天又

此の天又
 此の天又
 此の天又



木下村山

伴五郎三十一

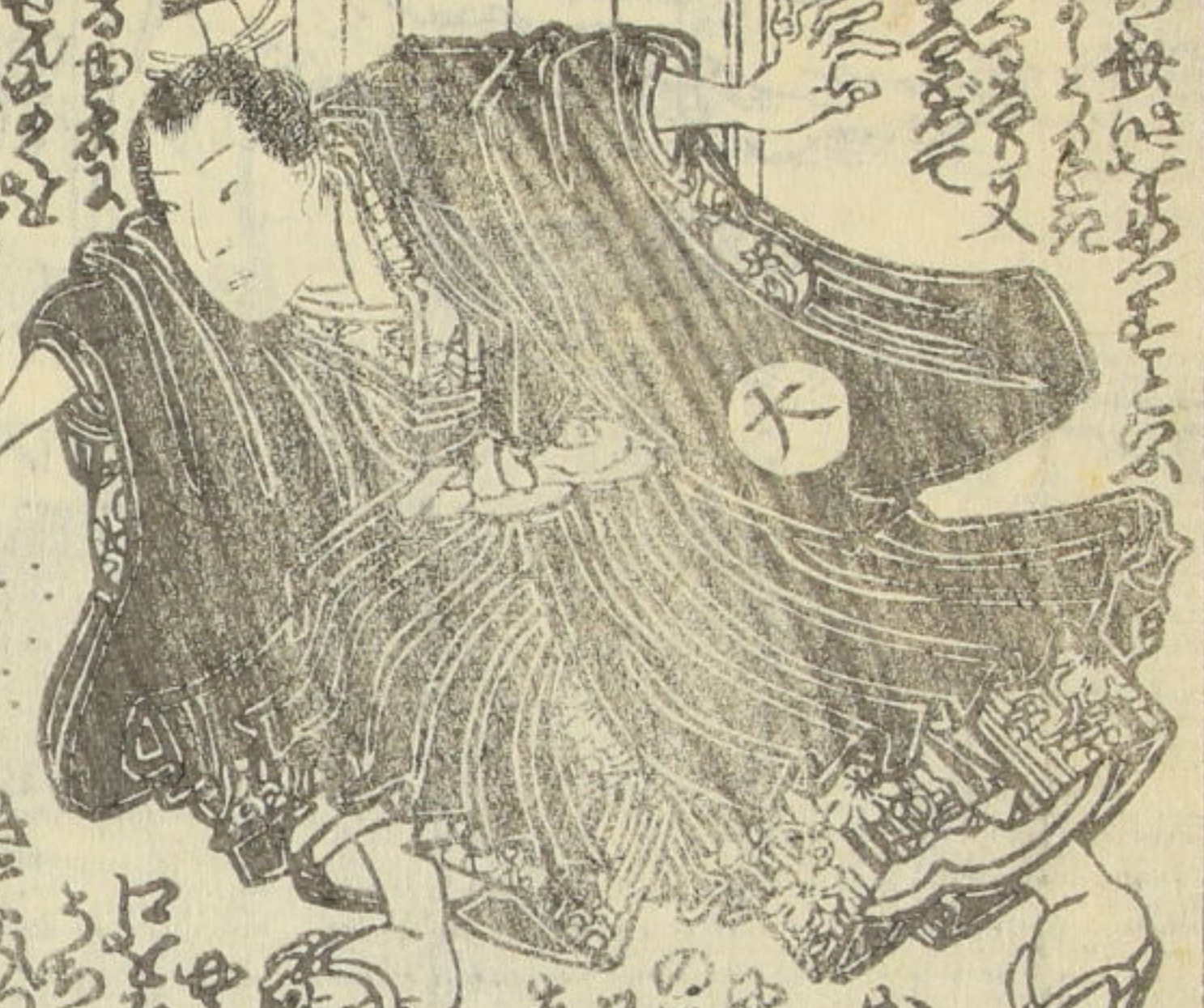
何れもよきものは
 ありませぬと云ふも
 世々の世に大いなる
 運命ありて世に
 ありて世に大いなる
 運命ありて世に
 ありて世に大いなる
 運命ありて世に

又かやういふも
 ありて世に大いなる
 運命ありて世に
 ありて世に大いなる
 運命ありて世に
 ありて世に大いなる
 運命ありて世に

大いなる運命ありて
 世にありて世に大いなる
 運命ありて世に
 ありて世に大いなる
 運命ありて世に

大いなる運命ありて
 世にありて世に大いなる
 運命ありて世に
 ありて世に大いなる
 運命ありて世に

五百日の無事な日々を
いかに過ごしたか
いかに過ごしたか
いかに過ごしたか



おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ

おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ



おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ

おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ



おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ

おんなのこ

おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ
おんなのこ

門前をたふらむに
 ありともつねもいふありあは
 みやくもつねもいふありあは
 ありともつねもいふありあは
 ありともつねもいふありあは
 ありともつねもいふありあは
 ありともつねもいふありあは
 ありともつねもいふありあは
 ありともつねもいふありあは
 ありともつねもいふありあは
 ありともつねもいふありあは

日影のたふらむに
 そのまのこゝろは
 せいぞろい
 せいぞろい
 せいぞろい
 せいぞろい
 せいぞろい
 せいぞろい
 せいぞろい
 せいぞろい
 せいぞろい



うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに

あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに

あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに

うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに
 うらやまのたふらむに

あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに
 あつちのたふらむに



應賀作國貞画



安政三年丙辰新春新板目錄

倭文庫	赤松譚	童井菱	譚柄瑠璃	茶番案文	神代七	金本類錦繪
三十四編 三十五編 三十六編 三十七編	九編 十編	六編 七編	四編 五編	全冊	三編 四編	上州屋重藏
萬亭應賀作	如淵外史作	為永春水作	西澤一鳳作	萬亭應賀作	同	同
陽齋豐國画	同	同	陽齋豐國画	陽齋豐國画	同	同

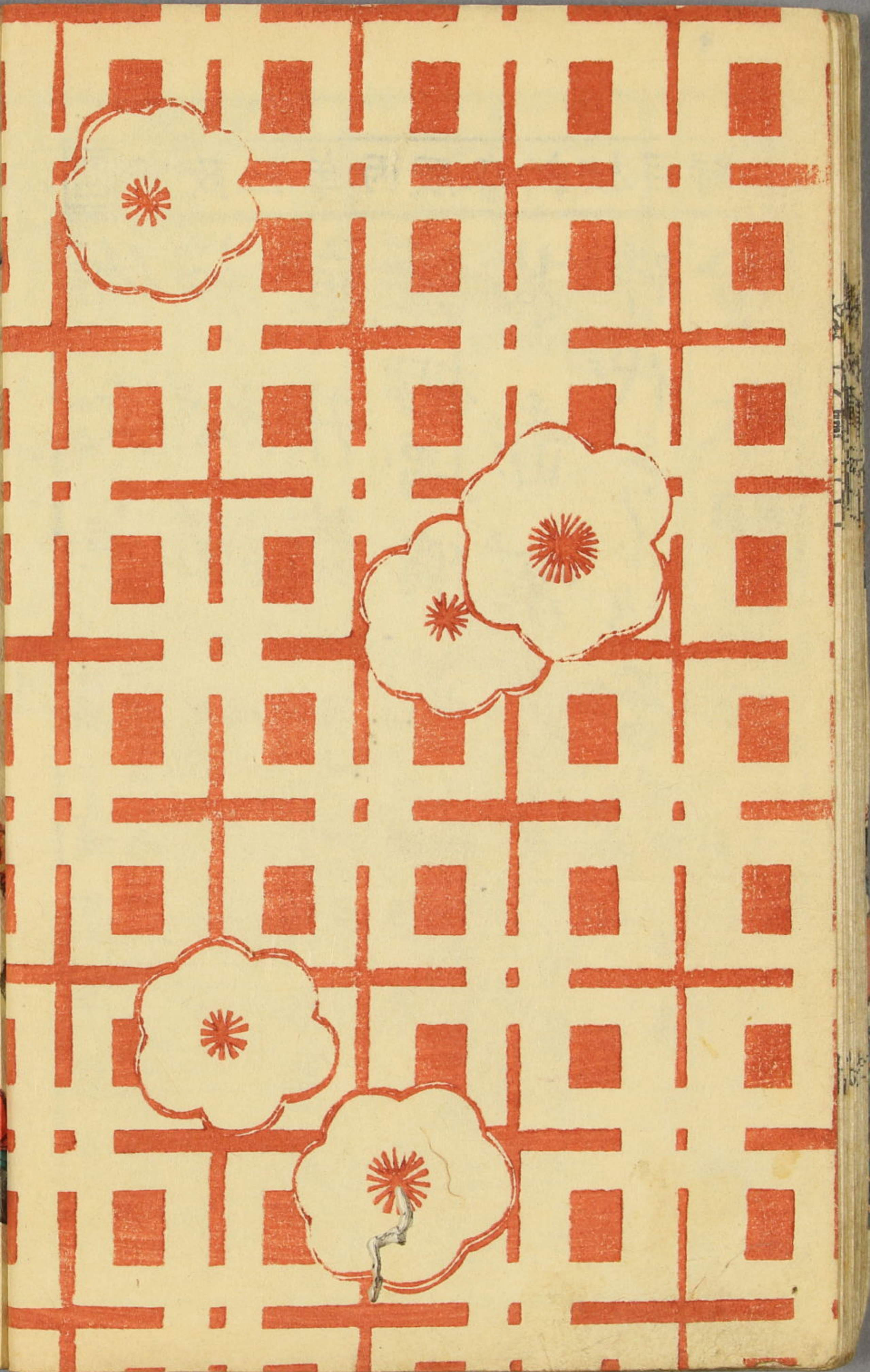


万亭應賀作
歌川國貞画

仕道西多之阿豆

錦重堂版

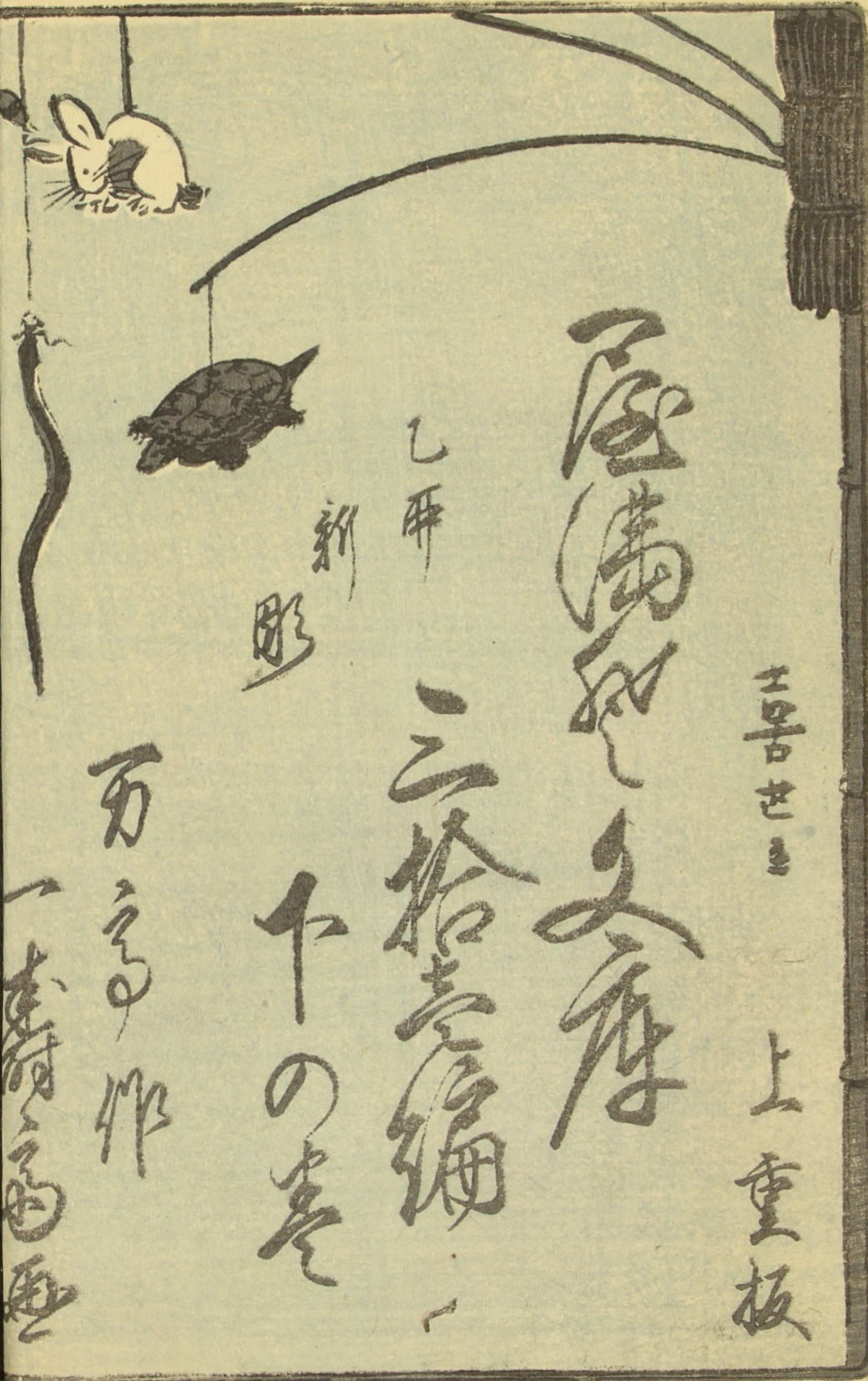
下





朱子文庫三十一

十一



二部世

上重板

屋満屋又厚

し甲

二拾巻編

新形

下の巻

万々作

一巻の巻

人面敷のかきとちり

これぞのひかりのまにまにを
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも



水鏡のまにまに
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも

水鏡のまにまに
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも

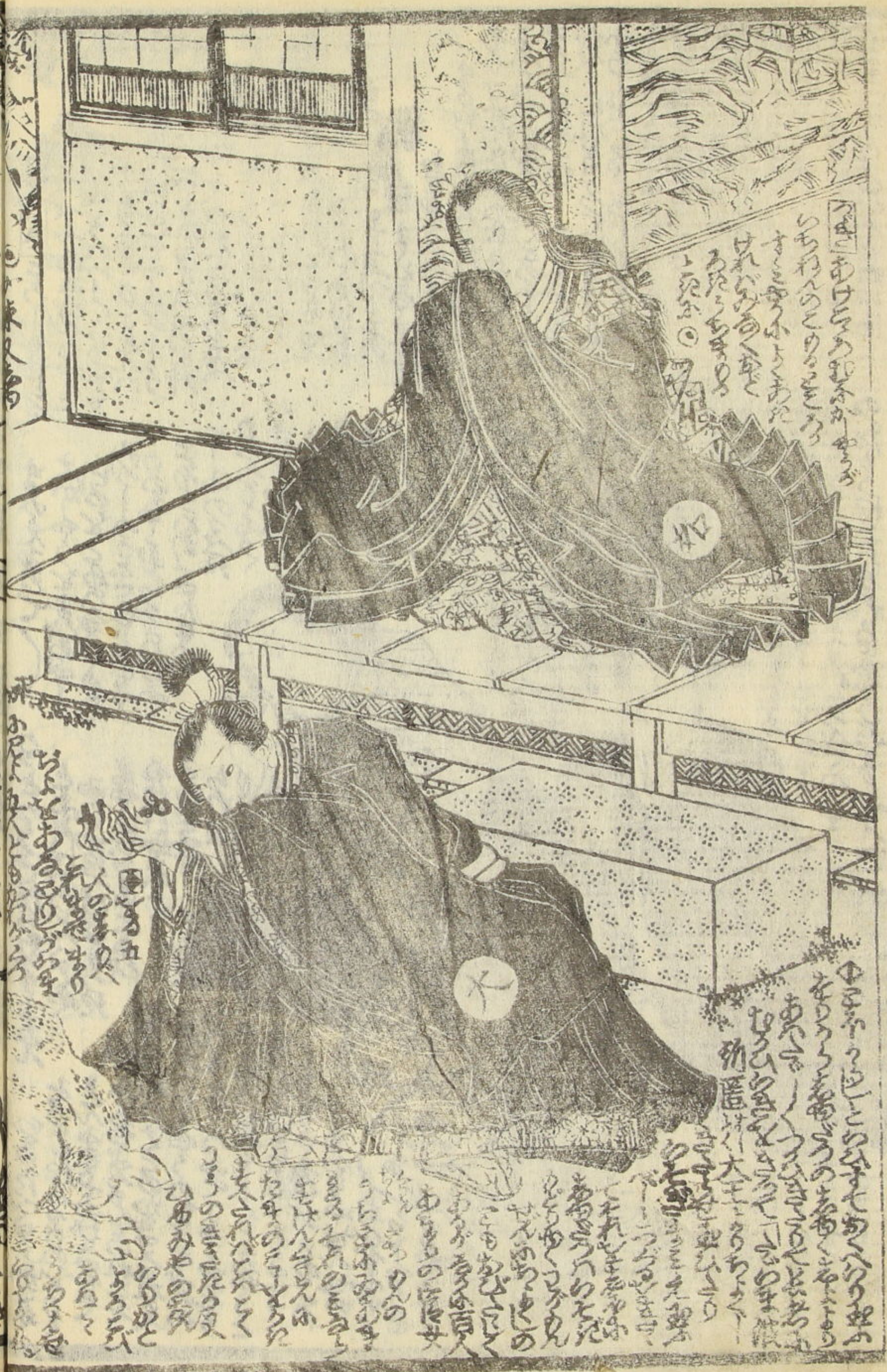
水鏡のまにまに
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも

水鏡のまにまに
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも



水鏡のまにまに
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも

水鏡のまにまに
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも
とていふことありあはれなるも





四
 二人の女は坐す。一人は着物を脱ぎ、帯を締めて、もう一人に話をする。背景には障子と建具が見える。

二人の女は坐す。一人は着物を脱ぎ、帯を締めて、もう一人に話をする。背景には障子と建具が見える。

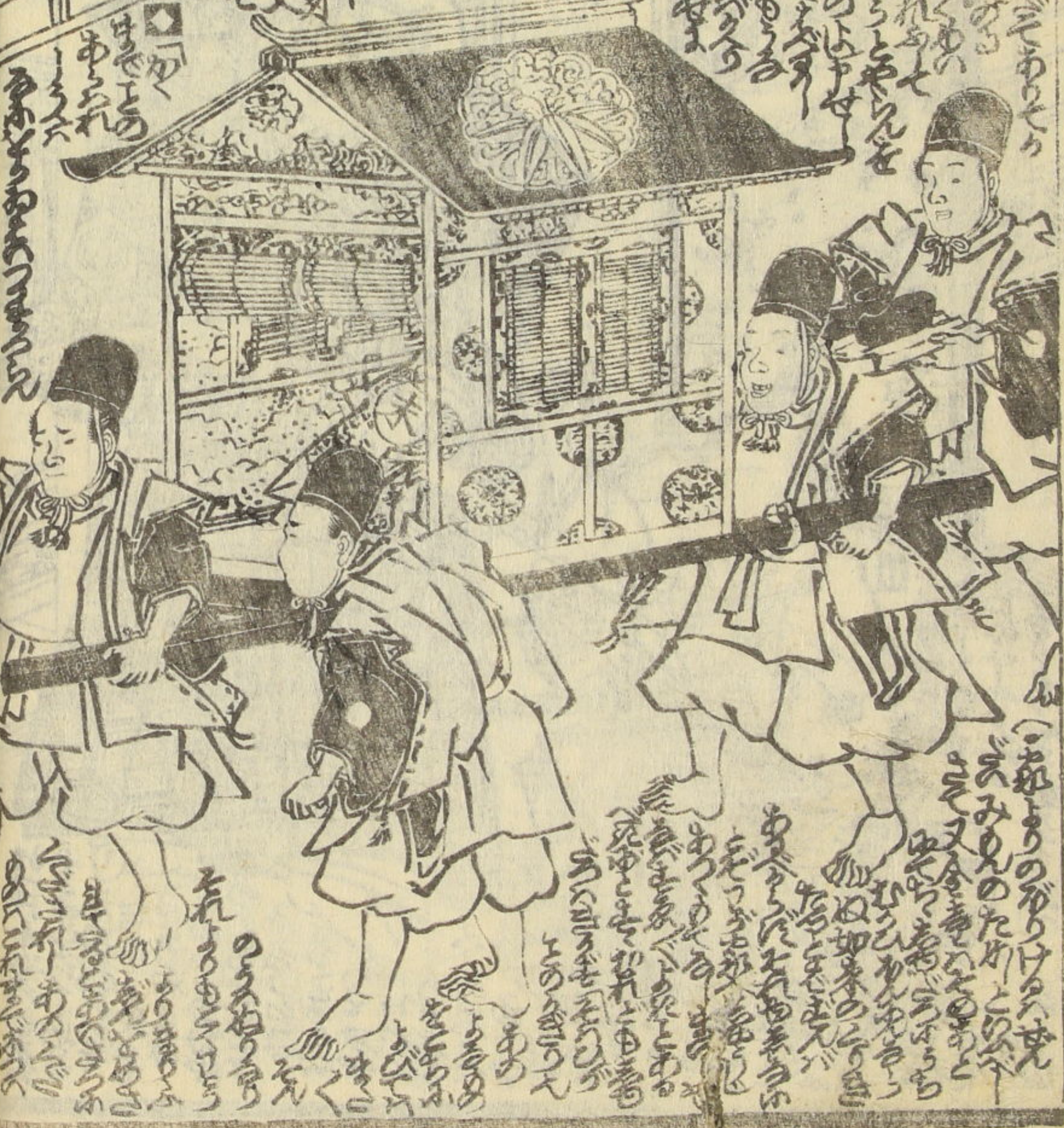
その女は着物を脱ぎ、帯を締めて、もう一人に話をする。背景には障子と建具が見える。

五人の男が立寄り、一人の女に話をする。背景には障子と建具が見える。



ついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出し

ついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出し



ついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出し

ついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出しついでに馬を走らすに馬は走り出し

安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫出世双六

万亭應賀作
一陽齋豊國画

春の遊将碁双六

同
歌川貞房画

男女役替双六

同
一陽齋豊國画

大寶御江戸圖

極上摺 奉書六枚半續
初編 二編 出板

清元稽古本

初編 二編 出板

常磐津懷中本

初編 二編 四編 追々枚仕

極上摺 擬百人一首

一陽齋豊國
廣國豊國
重芳國合

万亭應賀作の歌川國貞画

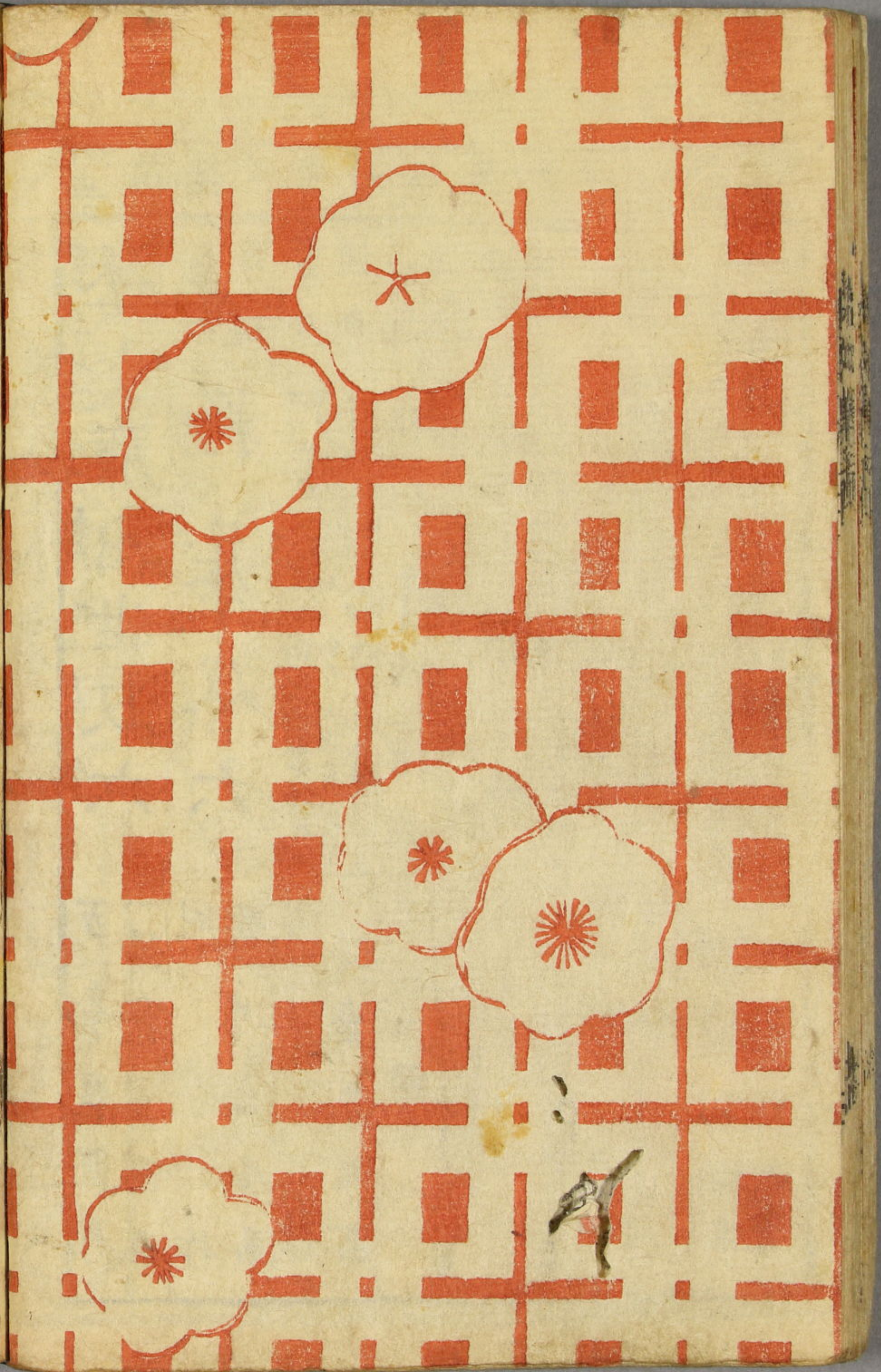


万亭應賀作



狂歌曲多立圖

上



釋迦八相倭文庫三拾二編叙
 夫一見於女人不離三惡道永結三途業何於一
 定墮無間獄有女人煩惱の原地獄の使也一度犯
 罪れば五百世の間彼を隨て六趣の輪廻を毒蛇の
 人を見ざると又經文やも説れりされども娼欲の止
 人四目居士大樹仙人杯の説と視つて凡流轉生死の
 淫欲の依りたる然らざる勇む春の駒の身と擲ひ且
 失ふ皆是なり係れぬ茲に五々の菩薩の第二勢至
 變せ何難可難の煩惱心と自然と改止せりめはも
 袈裟御前の譚を因縁了るも亦方便本と云ふもの
 嘉永八乙卯年孟春發行 万亭應賀誌

やまを
 婦をま
 守り編
 上のちん
 意がえ化
 國貞画



人形町通
 上柳屋主筆

十喜
 丑

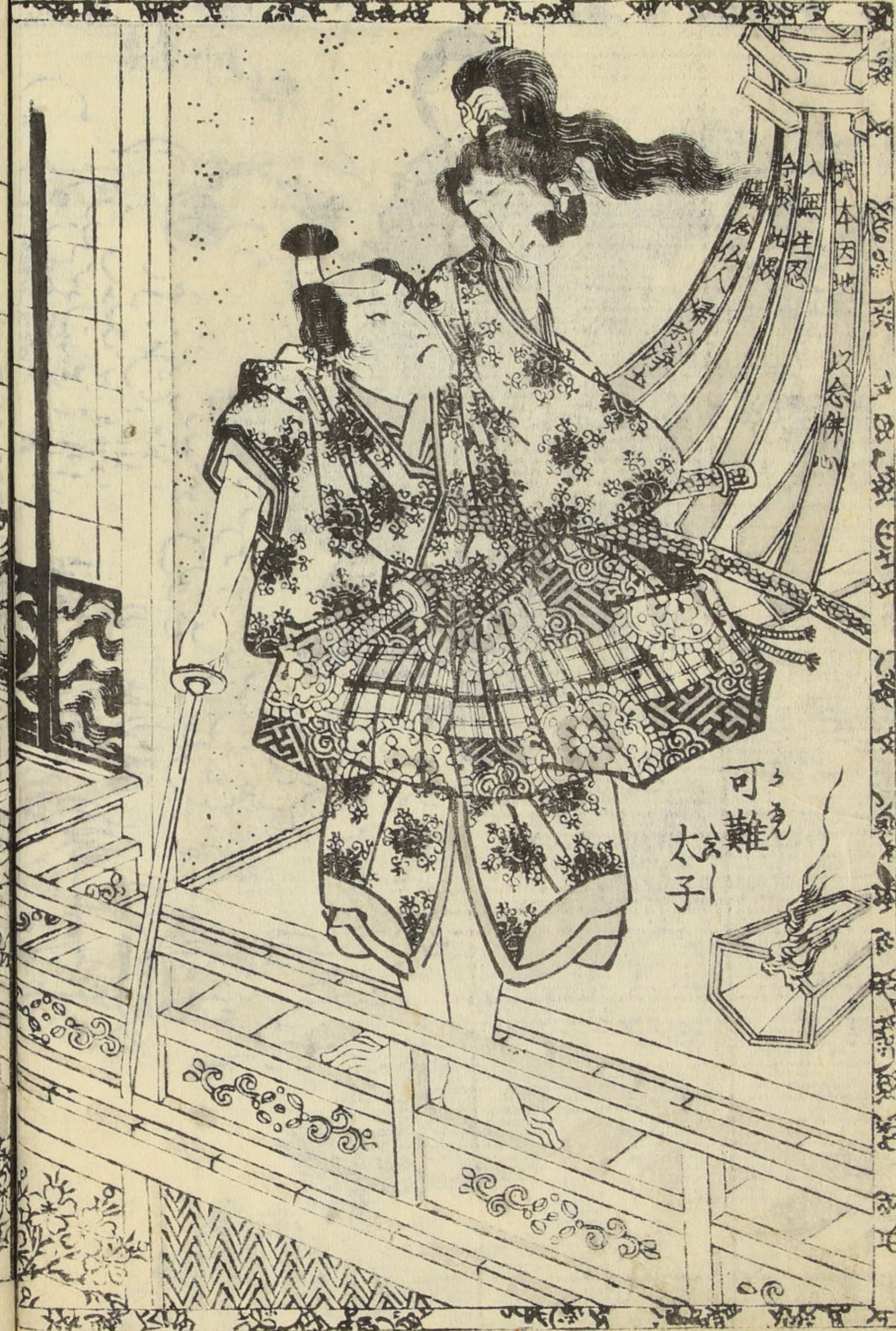


何文庫三三



如未の
可難太子
過て
柳華
夫人の
首と
討

阿
難
太子

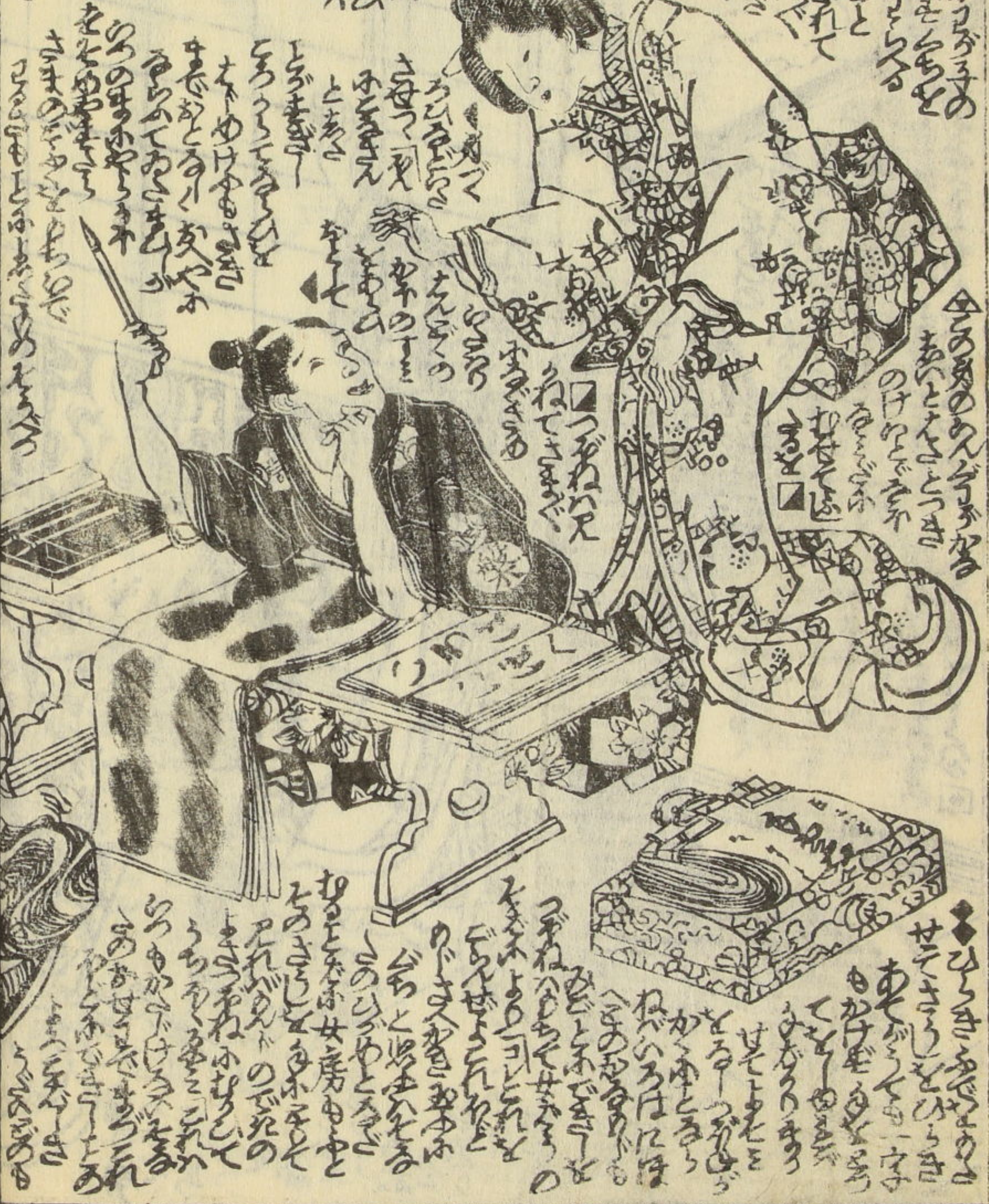


可
難
太子

阿難太子

我本因地
以念佛心
入無生忍
今於此境
念公入人

ついでに片やちうとふく子
とんかくしうくたむせむち
あまのあまのあまのあまの
さまのあまのあまのあまの
とんかくしうくたむせむち
あまのあまのあまのあまの
さまのあまのあまのあまの
とんかくしうくたむせむち
あまのあまのあまのあまの
さまのあまのあまのあまの



このあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

ついでに片やちうとふく子
とんかくしうくたむせむち
あまのあまのあまのあまの
さまのあまのあまのあまの
とんかくしうくたむせむち
あまのあまのあまのあまの
さまのあまのあまのあまの
とんかくしうくたむせむち
あまのあまのあまのあまの
さまのあまのあまのあまの



このあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの



目蓮地獄に落ちたる
 如來の御影を
 見るに
 目蓮地獄に落ちたる
 如來の御影を
 見るに
 目蓮地獄に落ちたる
 如來の御影を
 見るに



目蓮地獄に落ちたる
 如來の御影を
 見るに
 目蓮地獄に落ちたる
 如來の御影を
 見るに

目蓮地獄に落ちたる
 如來の御影を
 見るに
 目蓮地獄に落ちたる
 如來の御影を
 見るに



目蓮地獄に落ちたる
 如來の御影を
 見るに
 目蓮地獄に落ちたる
 如來の御影を
 見るに

安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫 三十四編三十五編 三十六編三十七編 萬享應賀作 陽齋豐國画	赤松譚 九編十編 同如 淵外史 画作	重井菱 六編七編 同為 永春水 画作	譚柄瑠璃 四編 西澤一鳳 画作	茶番案文 全冊 万享應賀作 陽齋豐國画	神代 三編 同 一勇齋國芳 画作	重本類錦繪 大形 上州屋重藏
---	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------	------------------------------	------------------------------	----------------------



應賀作國貞画

陽山
此の世に...
そのまゝ...
ねん...
あつ...
あつ...
あつ...
あつ...

陽山

①世ま...
のち...
む...
か...
あ...
あ...
あ...
あ...

け...
ら...
の...
ま...
ら...
あ...
あ...
あ...
あ...

歌川國貞画

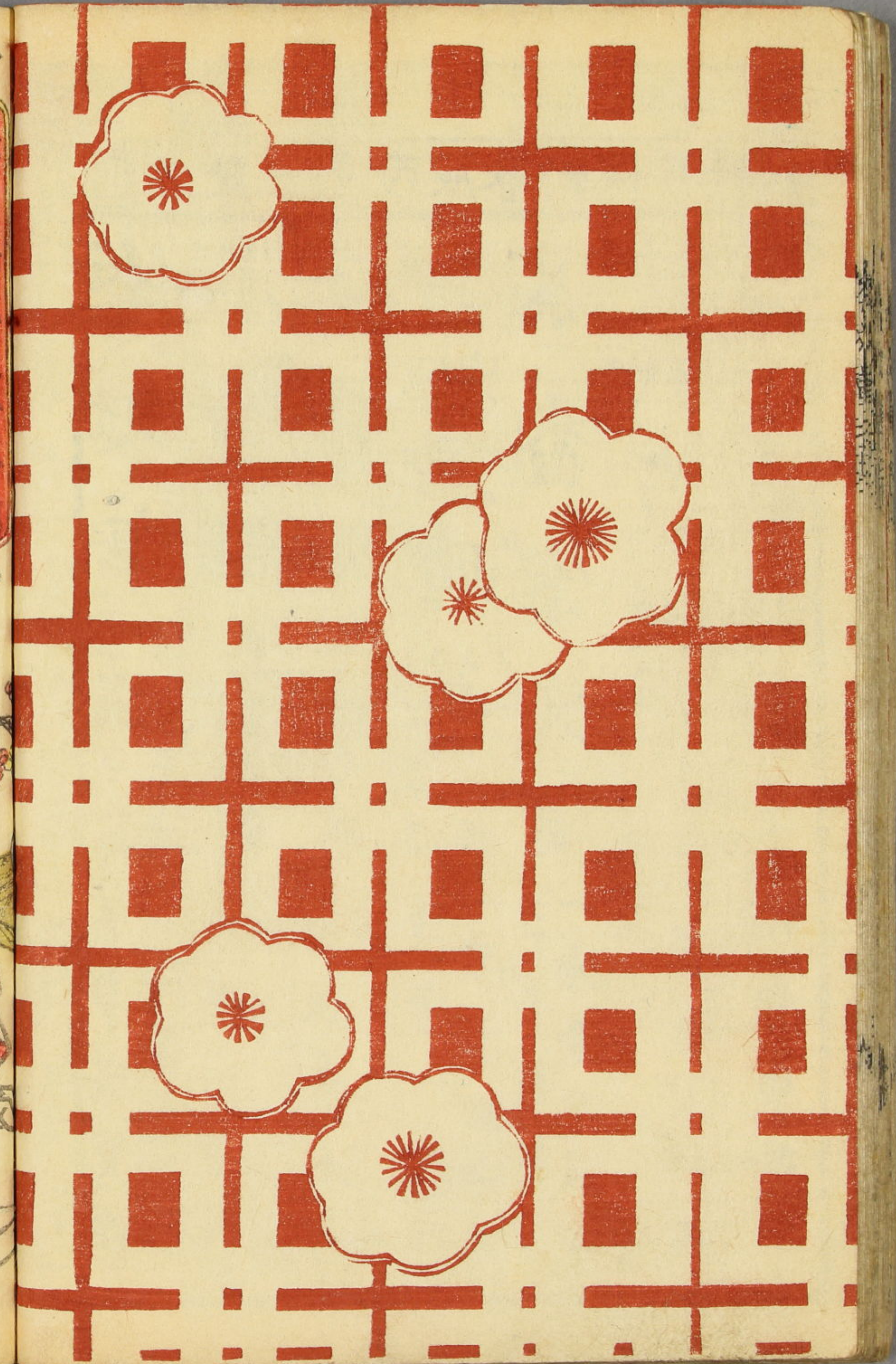
嘉永八年
乙卯限月
新刊

倭文庫三拾二編



錦堂
版

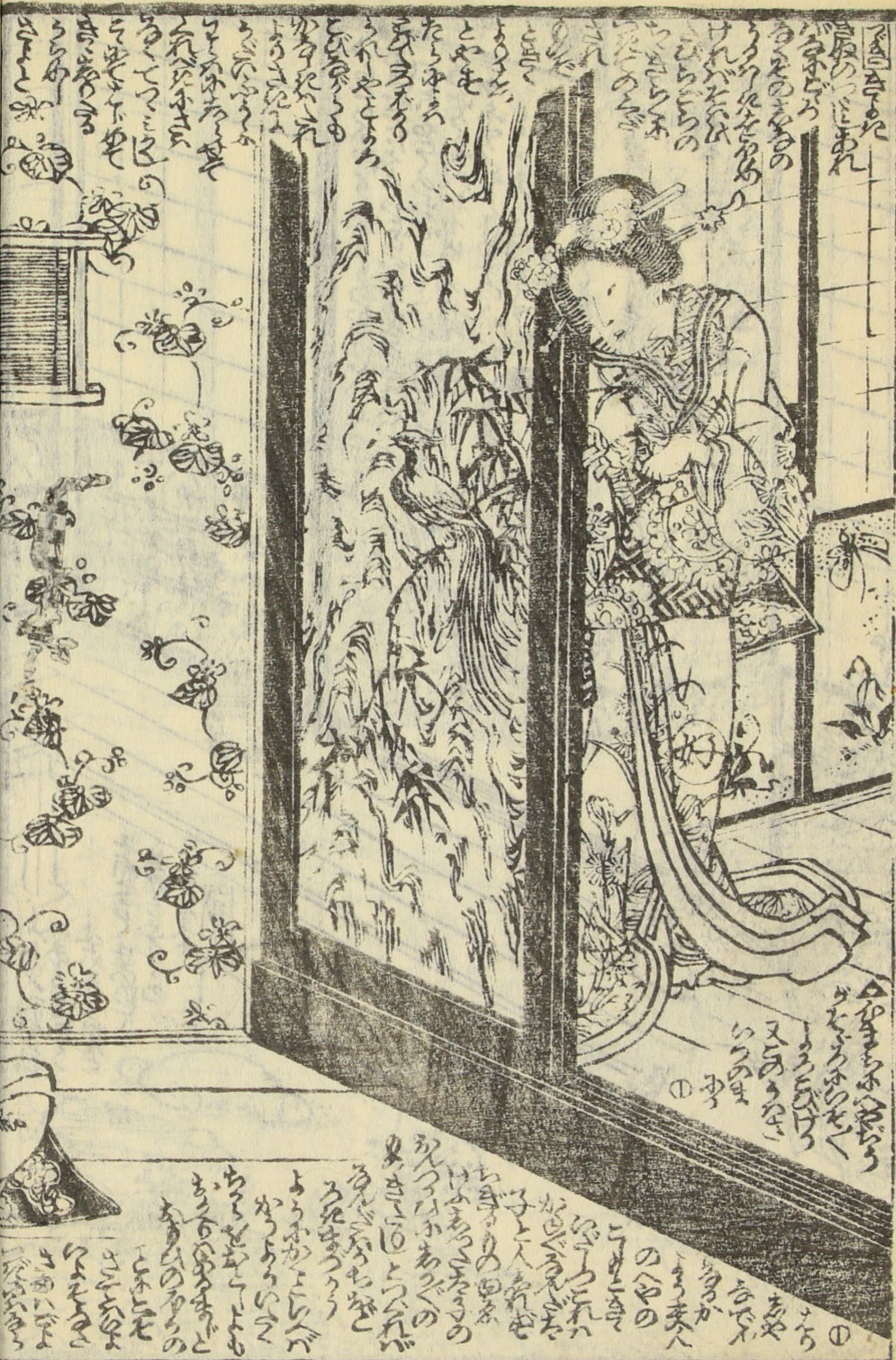
下



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script (kyogen), located at the top and bottom of the left page. The text is written in a cursive style (sōsho).



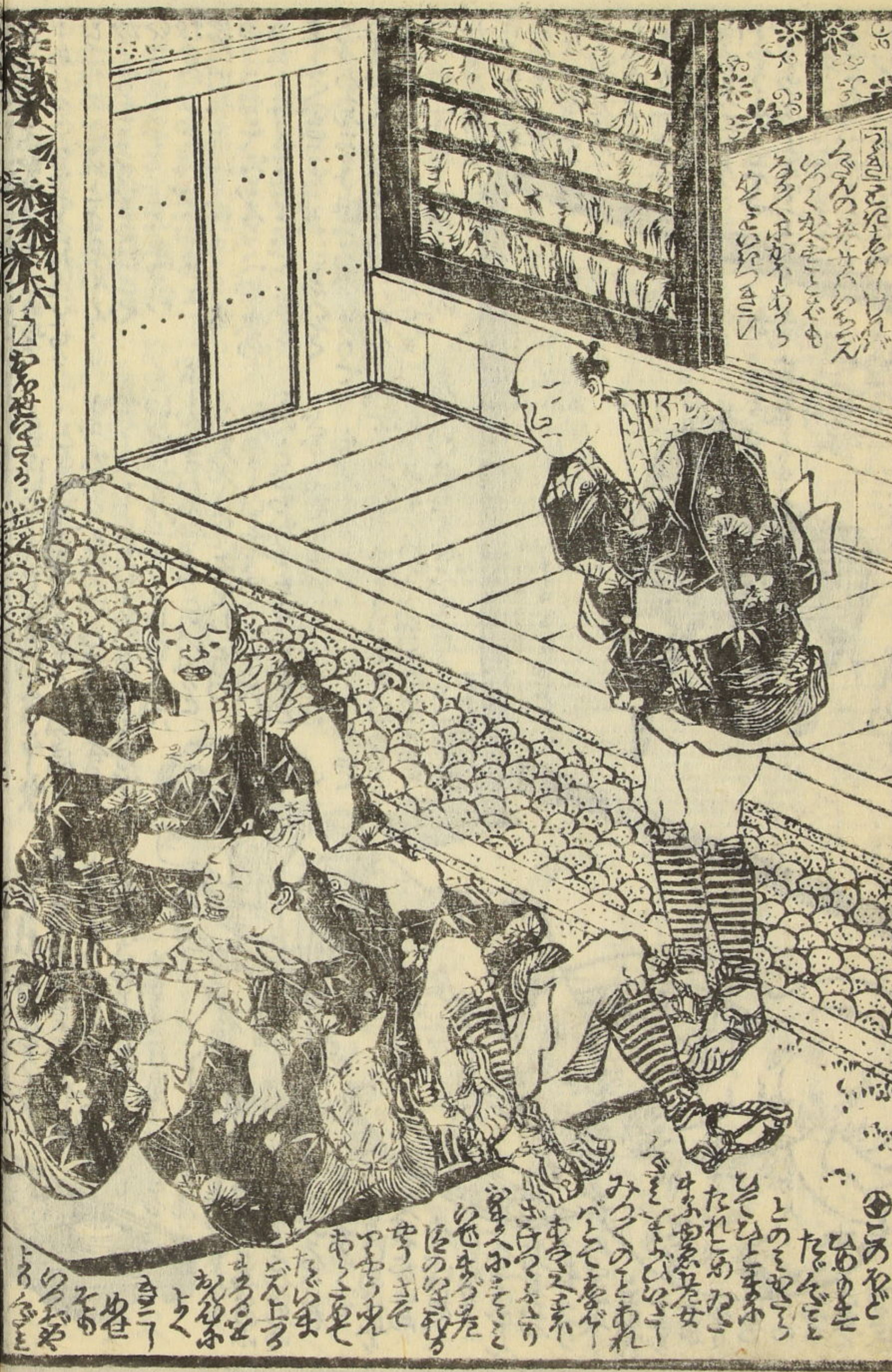
Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script (kyogen), located at the top and bottom of the right page. The text is written in a cursive style (sōsho).



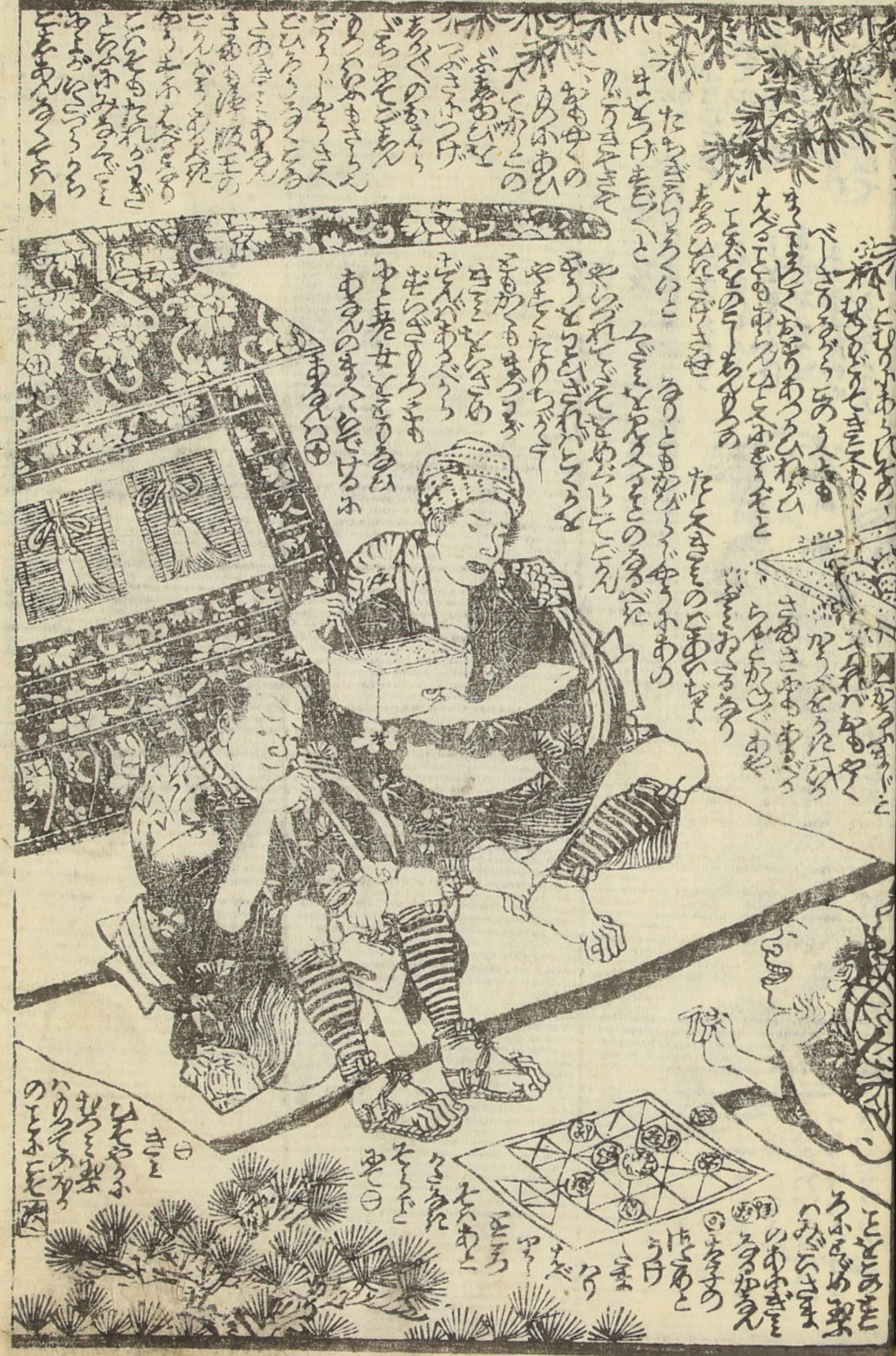
倭文庫三十一

十三

この世にあらはれぬ
人の心はさかづき
しづく女をこそ
多くはあはれ
めとていれり



この世にあらはれぬ
人の心はさかづき
しづく女をこそ
多くはあはれ
めとていれり



この世にあらはれぬ
人の心はさかづき
しづく女をこそ
多くはあはれ
めとていれり

何事か...
...
...

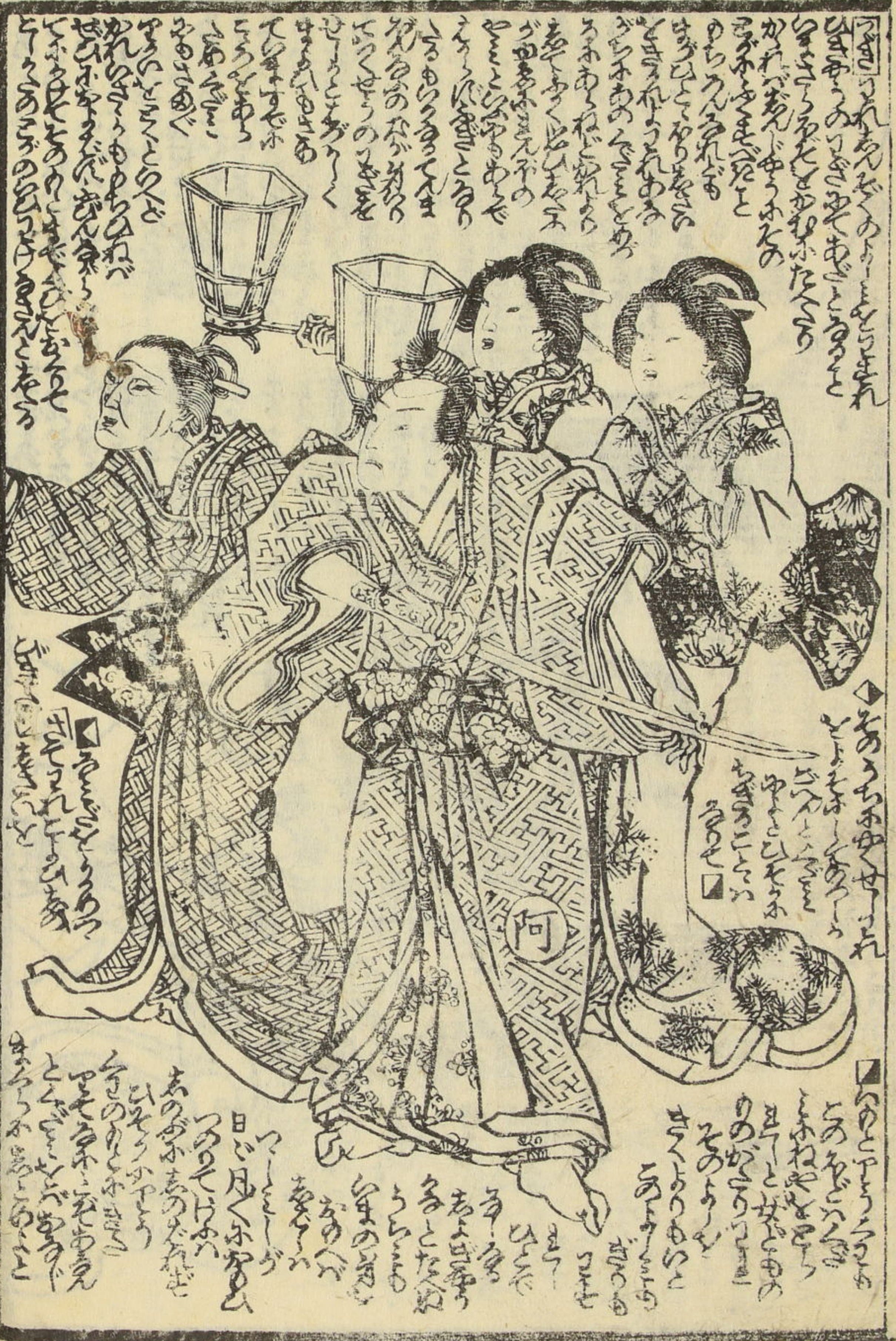


何事か...
...
...

何事か...
...
...



何事か...
...
...



安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫出世双六 万亭應賀作 一陽齋豊國画

春遊 将碁双六 同 歌川貞房画

男女 役替双六 同 一陽齋豊國画

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

清元稽古本 初編 二編 出版

常磐津懷中本 初編 二編 三編 四編 返板仕

極上摺 擬百人一首 陽齋 豊國 貞房 合

万亭應賀作の歌川國貞画

此の巻は、万亭應賀作の歌川國貞画の巻である。此の巻は、万亭應賀作の歌川國貞画の巻である。此の巻は、万亭應賀作の歌川國貞画の巻である。



此の巻は、万亭應賀作の歌川國貞画の巻である。此の巻は、万亭應賀作の歌川國貞画の巻である。此の巻は、万亭應賀作の歌川國貞画の巻である。

